

夏季休業を迎えるにあたって

夏季休業後は、不登校児童生徒が増加する傾向にあります。

進級・進学への期待と不安を抱えながら、新しい環境への適応を図ってきた子どもたちですが、次第に疲れもたまっていく中で息切れを起こしやすい時期でもあります。また、夏季休業を迎えることで、少しずつ慣れてきた学校生活のリズムが一旦途切れてしまうことになります。様々な家庭の状況のもとで1月以上を過ごしたうえで再スタートを切ることになるため、夏季休業の前後においては、普段以上に子どもたちの様子を意識して見るように心がけることが重要です。

そこで、夏季休業時における取組について確認できるようにチェックリストを作成しました。それぞれの立場で振り返りを行い、各学校における不登校対策の充実に努めるようお願いします。

「夏季休業時における取組チェックリスト」

不登校の兆しをとらえる

- Q-U 検査の結果（色分けされた項目や、プロット図の位置など）に目を向ける。
- 欠席状況共有シートで、欠席・遅刻・早退の状況を確認する。

不登校の兆しがある子どもに

- 休業前には、個別の教育相談を実施する。
- 休業中には、電話連絡や家庭訪問を実施する。
- 休業後には、まずは登校できたことを認める。



不登校となっている子どもに

- 休業中の過ごし方について家庭と共通理解を図る。
- 子どもや保護者と話し合い、休業後の再登校のきっかけを作る。

学校にいるすべての子どもに

- 休業後には、表情や言動、服装や課題の提出状況などの些細な変化を意識して見る。
- 「1日休んだら電話連絡」「2日休んだら家庭訪問」を確実に実施し、学習や学校の様子等について知らせる。

「夏季休業前」からの取組が大切

家庭の中で1カ月以上の長い期間を過ごしたうえでの「夏季休業後」の再スタートは、新しい学年のスタート以上に学校生活の適応を図ることが難しいとも言えます。「夏季休業前」から、アンテナを高くして不登校の兆しをとらえるとともに、不登校の兆しをとらえた場合には、温かい気持ちをもって個別にかかわる機会を設けてください。